

ひめたにわたり

Eoniniella Ikenoi Hayata
(= *Scolopendrium Ikenoi Makino*)

小笠原諸島母島の石灰岩地にのみ生ずる常緑の小形羊歯で稀に栽培する。近似種が南支那海南島にのみ産するは奇である。根茎は短かく数葉を叢生し高さ10cm内外、葉柄は針金状で直立し黒く、光沢があり鱗片は少ない。葉面は柄に丁字状に傾き、長卵形、深心脚、長さ5cm内外、稍革質で光沢のある深緑色、柄の附根附近がくぼんだ広い漏斗状に展開、縁は裏へ軽くめくれる。裏は黄緑色で支脈に沿って長い囊堆を生じ、同形の淡黄白色の苞膜あり。和名は姫谷渡りでコタノワタリに似て一層小形、後者を曾って「谷渡り」といったからである。属名は小笠原島のラテン名 *Bonin* に因む。



第 3882 図

いよくじゃく

Diplazium Okudairai Makino

関西から四国、中国の山中溪畔にはえる羊歯草本で、稀産種である。形状はノコギリシダに類するが、葉面は草質で、草質を帯びず、羽片の数は稍少なく、その縁辺には粗大の鋸歯を生じ、その鋸歯には明瞭な細鋸歯を有し、基部の前方に向う耳垂は上述の粗大鋸歯に推移するため余り明瞭でなく、囊堆は羽軸と接近することが少ないから、両者を直接に比較すれば区別は容易であるが、単独では間違ひ易い。根茎は匍い葉柄には鱗片が少なく、囊堆は線形の苞膜がある。和名は伊予孔雀で産地と美しい葉面を孔雀の尾羽にたとえる。



第 3883 図

いわやしだ

Diplazium javanicum Makino
(= *Diplaziopsis javanica C. Chr.*)

東南アジア帯に分布する大形羊歯草本。九州以北本州中部まで及びとんで秋田県の一局部に産する。根茎は匍い葉は少数集まる。長さ50cm-1m、葉柄は淡緑色、基部にだけ暗褐色の鱗片。葉面は柄より遙かに長く単羽状で草質、乾いて膜質、各側に鎌状長楕円形の羽片5-8対、大きな頂小片1個、共に長さ13cm内外、截脚に近く、細脈は羽軸に近い程大きい網眼をなし、羽軸の両側に淡黄色の囊堆が太く隆起して並び、長さ1cm、苞膜は巾広くその縁がはじめ囊堆の下に敷きこまれるが、熟す時は縮んで引き抜かれる。しかし屢々機械的に腹が破れる。和名は最初の産地愛媛県上浮穴郡岩屋山に因む。



うらぼし科

うらぼし科

さとめしだ

Athyrium multifidum Rosenstock
var. *deltoideum Nakai*

本州から四国へかけて、稍高所の溪谷の林下に生ずる落葉大形羊歯草本。時に低地にも生ずる。高さ80cm内外、葉はひろく水平に展開する。根茎は稍柱状、その先から葉が5-6枚集って出る。大きな割に葉柄、羽裂片が繊弱である上に、鱗片が少ない。葉面は三角形~三角状卵形で、軟かい草質、乾けば膜質となり、淡い暗碧緑色、羽片分岐部に屢々汚紫色の着色がある。2回羽状複葉で、小羽片は羽状深裂、細鋸歯があり、囊堆は裂片の中脈に近く、短かい勾玉状につく。和名は里メシダ。ミヤマシダに比べ里近いからである。



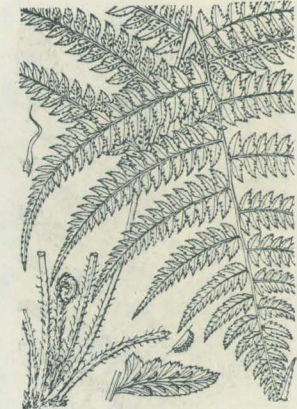
うらぼし科

第 3884 図

たにいぬわらび

Athyrium otophorum Koidz.
(= *A. rigescens Mak.*)

本州中部から以西の稍暖地の林下溪畔などの多湿地に多い羊歯草本で、葉は半常緑的。径3-4cmの太い根茎が地上に直立し、頂から2-3葉を斜上して開出、高さ40-70cm。葉柄は葉面の中軸と共に生時紫色を帯び、表は強く溝をなし、淡褐色の軟かい鱗片が散在してつき、質はもろい。葉面は甚だ端正の感がある切れ方で、2回羽状複葉、多少灰色を帯びた紫色、羽片小羽片共に質稍剛直で觸むと快よい抵抗がある。小羽片は平坦、むしろ縁の細鋸歯が上へ反り気味になる。基脚は前方へ突出した截脚、囊堆は小羽軸に近く並び弓形。和名はその生地を示す。



うらぼし科

第 3885 図

みやましだ

Athyrium crenatum Rupr.

信州以北の針葉樹林帯の林下、草つきの疎な処に見出される羊歯草本で、地上部は冬に枯死する。細い根茎が長く地中を匍い、処々から距って1葉ずつを出す。葉の感じはキョウタケシダに似ているが、稍小形且つ裂片細かく繊細であるし、細い針金様の葉柄に黒味勝ちの硬い鱗片がある点で区別できる(キョウタケシダでは軟かい褐色鱗片)。葉面は広い三角形、15-30cm長、2-3回羽状複葉、羽片は最下最大で長楕円形尾状に鋭尖する。裂片は円頭~鈍頂の広楕円形、草緑色、囊堆は小羽軸に近く脈上に生じ線形。旧大陸北部一帯の産。和名は深山シダ。



うらぼし科